婦人と新社會

山田わか主筆

十二月號

每月一回一日發行　第參拾四號　大正十一年十二月一日發行

婦人と新社會



婦人と新社會



クリスマスが來ると、人は基督の降誕を思ふと同時に、基督の十字架上の死と、其の復活とを思ます。

けれども、基督の死と復活とを思ふだけで自分自身の死と復活とを考へないならば、貴い基督の死も復活も私共のために有益でありません。

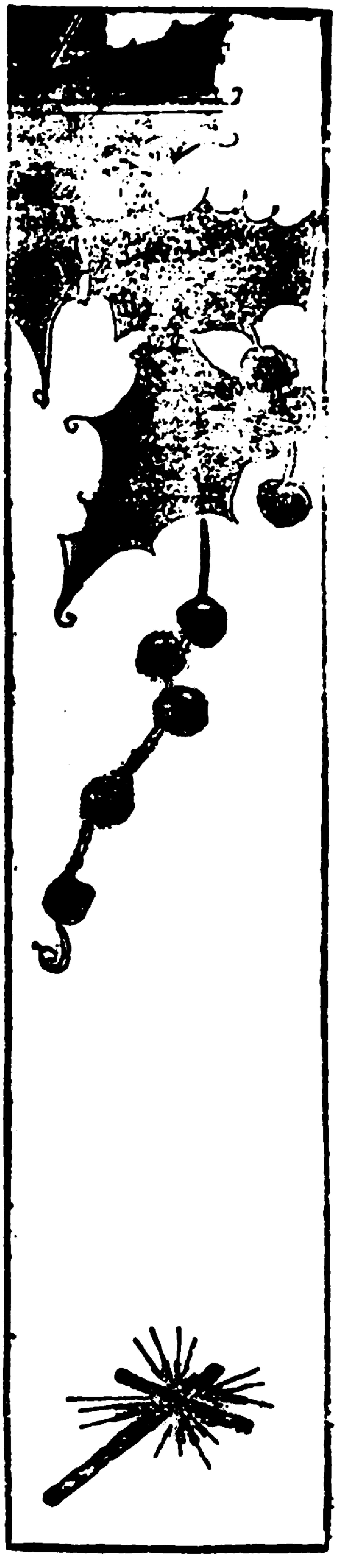
私共のたましひとは私共のハートです。私共のたましひ、則ち、私共のハートをして永遠の生命を保持させようと思へば、私共は日々に新らたなる知力の糧を得て行かなければなりません。

つまり、人間の知力の新陳代謝は、人間のたましひを救ふための十字架上の死と復活であるのです、私共の生活には、毎日々々新しい困難が出て來ます。其の困難に打ち勝ち、たましひの生命を保つには毎日々々新しい知識が必要です。

多元主義が一元主義に、一元主義が複數主義に、個人主義か社會主義と云ふように。知力は生れては死にしてゐます

正直な人か正直に生きて行くには毎日々々知力上の復活が必要です。毎日々々十字架上に死しては復活することによつて私共のたましひ、則ち、ハートは永遠の生命を保持ます。

クリスマス號



婦人思想界の浮標

現代の婦人と一言の下に總括して云つても其の進歩の程度は千差萬別であり、思想の深淺も亦種々雜多であります。

けれども、これを先づ大體に於て三つに分けて見るなら、極々少數の本當に女性としての自覺を持つた立派な人格者と、其れよりは餘程多數な所謂新しい女、つまり、男性模倣に成功した婦人と、それから大多數の何百年以來の冬眠の狀態を續けて居る

かのやうな婦人との三種になります。

實を云ふと、婦人問題を取り扱つて居る私共にとつては、それ等の冬眠の狀態を續けて居るかのやうに見ゆる婦人の數が餘りに多數なので、時には、失望を感ぜずには居られません。婦人問題とか、婦人の使命に關する議論などと云ふものは、まるで他界の事柄でゝもあるかのやうに全く無關心で居る婦人達が世間には餘り多過ぎます。

さう云ふ婦人達を一團として考へて見る時に、其は恰も精神的死塊ではないかと思へる時さへあります。そして、一體、彼女達にも進歩と云ふものがあるかどうか、云ひ直せば、進化の法則と云ふものが彼女達の上にも働いて居るものかどうかを疑はずに居られない時さへあります。

けれども、さう考へるのは失望のあまり陷つた一時の偏見であつて、彼女達と雖も矢張り進化の法則の支配を受けて遲々ではあるが進歩しつゝある、そして、其れが無

自覺のうちに行はれて居るのだと私は考へ直します。彼女達でも矢張り世の中の大勢に引きづられて其の大勢の趣く方向に向つて進みつゝある、他の言葉をもつて云ふならば、如何に無自覺な彼女達でも社會生活の中心から流れ出て來る力の影響を受けずには生きて行けないと云ふことは事實でありませう。

婦人界の大勢と云ふ其の川の流れはどの方向に向つて流れつゝあるか？　其の方向を指示して居るものは其の川の表面に浮んで居る浮標であります。そして其の浮標は先覺婦人であります。

今日迄の處では、其の浮標となつて居る婦人の目的は所謂經濟上の獨立を得て、所謂寄生の狀態、所謂奴隸の位置から脫することでありました。經濟上男子から獨立しないならば婦人は決して自由を得ることは出來ない、たとひ、婦人に參政權があつても經濟上の獨立がなければ自分の意志を實行することは出來ない、結婚は自由な戀愛を基礎としなければならないが其の自由を享有するには先づ經濟上の自由を得なけれ

自由を得るに付て其の資格を造るためには教育の自由、つまり、男子との機會均等がなければならないと云ふ主張を持つた婦人でありました。

婦人の其の主張は或る程度迄貫徹しました。婦人の職業範圍は日々に擴大しつゝありります。單なる傍聽生であらうとも、大學の門も潜ることが出來るやうになりました。のみならず、まだ、ツイ此の頃迄は女性なるが故に出なければならない處へも出されずに押込められて居たのに反して、今では、女性なるが故に出ずともの處へ引き出されると云ふ調子になりました。(現に私などは女性であるために四六時中講演を頼まれて困つて居ります。)

つまり、今日迄の覺醒したと云はれる婦人の目的は男性模倣であり、そして、其の目的はほゞ完成しようと云ふ處迄進められたのです。彼女達は女らしい感情や態度を持つことを避けて、男子と同じやうな感情を養ひ、能力を備へることを人間としての

誇りとし、そして、世間も――勿論世間全般ではありませんが――其れを『本當に氣持ちのよい男性的な婦人だ』として稱讃の聲を投げました。――尤も、大多數の婦人が、魂のない、クラゲのやうにグニヤ〳〵して居るのに對する反抗心からかも知れませんが――

男性模倣を目的として居た婦人は自分達の傾向が、唯一の正しいものだとして一般婦人の女らしい處、家庭的である傾向を卑しめて居ました。『自分は嫁になど行かないが、外の人達は皆お嫁に行くのだ』と放言するのは『自分は一個の人間として立派に獨立して行けるのだが、外の女達は意氣地がないので奴隸になるのだ』と云ふ意味だつたのです。そして、其れは、長い間の屈辱なる婦人の位置に對する反撥心であつたのです。要するに其れはノラの態度であつたのです。

併し、さうした態度の婦人の將來は果して幸福であつたかどうか？　さう云ふ種類の婦人が續出することによつて社會が益したかどうか？

所詮人間は大自然の法則には勝てません。結婚を希望する心、一人の異性を自分のものにしたいと云ふ慾望は男も女も同じやうに非常に強いもので、たとへて云ふなら其の力は丁度山の頂上から非常な勢ひで流れ下る水のやうなもので、經濟上の獨立とか個人の自由とか云ふやうなものは其の山腹にかゝつて居る霧のやうなものですから流るゝ道を一度見出した水の力は途中にボヤ〳〵して居る霧などは平氣でつッ切つて流れ下つてしまひます。

今日の男子が一個の人間として社會に出ては相當に手腕もあり立派な人でも、夫として父としてゼロであるのが少なくないのは、夫として父としての何等の用意も修養もないからです。處で、此の頃の先覺婦人は其の點までをも男子を模倣しました。

さう云ふ男子と、さう云ふ婦人との結婚は決して幸福でも有益でもありません。なぜなら、男女間の愛は唯愛情があるばかりでは長く生存することが出來ませんから。(此の點に關して書きたいこともありますが時間がありませんから他の機會に讓ります。)

とにかく第一期の先覺婦人則ち男性模倣をことゝして居た婦人の生活が結局不幸であると云ふことを此の頃の聰明な若き婦人は氣付いて居ます。たとへ、經濟上の獨立を獲得しても個人としての自由があつても、愛し得ず愛されずに一人淋しく老いて行く生活がどんなものであるかは、先進婦人達の苦き經驗によつて此の頃の聰明な婦人達は知つてゐます。

大自然の法則が女を女とし、男を男として居る以上、女が女らしく（魂のないクラゲのやうではなく）男が男らしくあることの意義と其の幸福と利益とを看取するようになりました。そして、實に、これは初期の婦人論則ち男性模倣の實行が高い價を拂つた結果なのです。いくつかの苦しい犧牲を目擊した結果なのです。

現代の若い聰明な婦人は男性模倣に行つた婦人達のやうに、結婚其のものを無意義だとも、家庭其のものを婦人のための牢獄だとも思つては居ません。

けれども、結婚を無意義ならしめ、家庭を生きた魂の牢獄ならしめて居る事實が存

在して居ることを認めて居ます。其處で彼女達は結婚の意義を認めて居ながら、家庭を尊重して居ながら、猶、結婚を避け、家庭を持たうとはしない傾向があります。

婦人と云ふものは家庭内に蟄居して居ればよい、社會と婦人とは無關係であるから婦人は社會を見る必要はないと一般が信じて居た頃こそ、社會的に活動したり、職業を持つたりする婦人は世間から僻目で見られて居ましたが、今日に於てはさう云ふ僻目はなくなりました。けれども、既婚婦人の意義、家庭婦人の價値と云ふものが社會的に認められてゐないので、つまり、冬眠の狀態にある婦人達と同じやうな待遇を受けることが現代の自覺ある婦人達には何としても我慢出來ないのです。

一個の人格者として女性として自覺ある貴い既婚婦人を遇する道が今日の社會には出來て居ないので、其處で、山の頂上から流れ下る水の勢ひを——結婚を希望する心を——中途で堰き止めて居ると云ふのが今日の最も進歩した若い婦人の實際狀態であると私は觀測して居ます。

これは本人にとつても苦しいことであり、又、社會にとつても決して利益でありません。賢い有力な婦人に獨身者として働いて貰ふよりも、彼女が結婚して賢明な母となつて、優良な新しい社會員（子供）を養成して貰つた方が社會はどんなに利益であるか知れません。

で、要は、既婚婦人を遇するに今迄のやうに低能者扱ひにしてはならない、家庭婦人を夫の蔭の人にして置いてはならない。もし、男子並びに社會が其の態度を改めないならば、新時代の心ある若き婦人は皆結婚を厭ひ家庭を持つことを避ける。そして次代は愚婦惡母の子供ばかりになる。して見たならば、現代の男子並びに社會は進歩の過程を阻む罪を犯すことになります。

婦人界の今後の潮流の浮標は男性模倣に成功した中性婦人であつてはならない。何處迄も女性としての自覺の上に種族的の大責任を深く感じ、種族の善のために働くことは、經濟的の仕事に從事するよりもより貴い社會奉仕であることを信じ、人類の幸

福のために先人が畜積して置いた寶（文化）を豊富に取り入れて居る婦人でなければなりません。

海外婦人界時報

スミス女子大學の新しい試み

米國マッサチユセッツ州ハートフォードのスミス女子大學は今回新しい試みを始めた。それは實力による自由研究法で、honor plan と稱せられ、成績優良な學生には定まつた學課を與へるよりは、自由に一人で考へたり讀んだりする時間を與へる必要があると云ふ假設論から出立したものである。で、始めの二年間は知力上の興味に全心を打ち込み、研究し得る習慣をつけるために用ひられる。勿論、其の目的は後の學年に於て選んだ學科に對して一層の努力を爲し得るためである。

其の二年間に學び得たものが一定の點數に或ひは其れ以上の點數に達したならば、其の生徒は學校の課程を修了せずに、直ぐ、自分の好む課目だけを選み得る。そして、其の受持ちの教授の指導の下に、自分の思ふ通りに研究を進め、そして、自分の讀んだものに付ての自分の意見を書いて其の教授に提出すればよいのである。結果に付ては、まだ、何とも云ふことは出來ないけれども、併し、見込みは有望であると云ふ。

ワシングトンの妹の家

ジョージ・ワシングトンのたつた一人の妹ベテー・ワシングトン・ルイズ夫人の家はケニモーアにあるが、これは他のワシングトンに關聯した家屋のように何處からも何等の保護も受けて居なかつた。そして、既でに、隨分いたんでしまつてゐる。處が、今回、バジニア州フレデリックスボルグ市の婦人達の愛國心が其れを默過することが出來ないで彼女達の團體が其の家を買ひ取つた。今後、それ等の婦人團體が其の家を管理し、そして、ワシングトンの記念の、もう、一つとして公開すると云ふことである。



早婚の弊に關する一考察

舊いタイプの婦人は非常に早く老境に入り四十才の坂を一寸越すともう異性に對する愛を感じる精力も權利もないかのように見へ、一社會員としても既に無用の人間であるかのやうに見へ、世間からも亦其のように定められてあるようです。そして、さうなつた重もなる原因は餘まりに早婚であつた結果であるように思へます。

或る學者の説によりますと、婦人が精神的に生理的に充分なる發達を遂げるのは三十才だと云ふことです。十七や十八の小娘では頭腦もまだ活動的にならず、文明人として生きて行くに必要な技術もまだ修得出來ず、社會的の目覺めもなく、一個の女性として生理的にも成熟して居ないのであるから、其年頃に結婚を斷行するならば、彼

女のうちに潜在して居る發達すべき可能性は、皆、萎縮してしまうと云ふのです。

事實に於て、又、私共が現代婦人と云つて現代を代表する婦人を擧げて見ようとするならば、十七八才の小娘ではなく、まだ意志の定らない二十歳位ひの婦人ではなく少なくとも三十歳以上の婦人であります。普通彼女達は女性としての本能を充分に發達させ、女性としての技術を充分に修得し、女性としての慾望を滿々に抱いて居つて性の本當の意義を知り、其れを充分に享樂し得るのも矢張り二十六七歳から三十歳位ひになる前ではないと云はれて居ます。

して見たならば、一個の女性として最高に發達し得た其の年齡に於て、結婚するのが最も順當であり、進化の法則にかなつて居ると云ふことになります。最高に發達した處で結婚をして母となるならば、其の子供は、知力に於て最高な、感情に於て最も豊富な環境を得て最も輝しく發育して行くことが出來ます。

性に關する問題が嚴肅に取り扱はれるようになるに從つて、多くの眞面目な婦人達

が自己の性的經驗を赤裸々に話すようになりました。其の結果、或る婦人は三十歳になつて、又、或る婦人は四十歳を近くして、始めて、異性との愉悦を覺へた、たとへ其の以前から結婚生活をして居たのだけれども、と云ふようなことが發見されました。

そして、こう云ふ晩熟の婦人はいつ迄も〳〵其の若々しさ、活氣、精力を保つて居る。恐らく、一生涯愛の生活を續けられるだらうと云はれてゐます。こう云ふ種類の婦人は昔から幾人も〳〵あつたに相違ない。けれども、本人の精神的の狀態は勿論生理的の狀態などに付ては何等の考慮が拂はれずに、周圍の事情により、又は、早婚を一種の誇りとして、まだ全く小娘の時代に、これから發達の道程に付かうと云ふ時に結婚を斷行し、伸びんとする可能力を踏みにじり、感情を幽閉し終せ、ツイには早老な愛なき血なき婦人の數を多くして居たのです。

勿論、凡ての婦人が其のように晩熟であると云ふのではない。隨分、十七八歳で既

でに〳〵性的に成熟しきつた婦人もありますから、さう云ふ婦人のためには早婚が幸福でありますが、併し、凡ての婦人を一定の年齢によつて律して行かうとする時に、幾多の無理、從つて不幸が釀されることを云ひたいのです。

異つた種族ではない、同じ人種のうちでも、否、一家族のうち、姉妹であつても早熟な娘と晩熟な娘とがあります。妹の方は既でに婦人としての性情を備へて居るのに姉の方はまだ全く小娘のようであると云ふ場合もあります。此の場合ひに、唯、姉だと云ふことの理由のみで、無理に姉の方の結婚を急ぎ、妹の方を打ち捨てゝ置くならば、其の兩方が不幸に陷ると云ふことになります。本人達は不幸に陷り、社會は損失をすると云ふことになります。

結婚に付て云ふ時には、必然、子供に付いて考へなければなりません。結婚の結果生れる子供が、動物の子と同じように頭腦が發達して居なくともいゝのなら、どんなに早婚でもかまいませんが、人間の價値は頭腦の價値であることを思ふ時、そして、

十七や八の母は子供の頭腦を造る能力がないことを思ふ時、私共はどうしても早婚を奬勵することが出來なくなります。文明に偉大なる貢献をして、人類の記憶の上から永久に其の名をぬぐい去ることが出來ないような人物は大抵の場合ひ、相當の年齢に達した母の子であると云はれて居ます。ネルソンは五人目の子供、ウオター・スコットは三人目の子供でありました。つまり、母が母としての責任を充分に感得して居て子供の頭腦の發達に最も都合のよい環境を造り得たからだと云はれて居ります。

母の精神的、知力的、及び、生理的狀態が直接彼女の子供に影響すると云ふことは既でに〳〵一般に認められて居る事實です。私共の心的狀態は私共の精神に影響を與へるばかりでなく、生理上にも影響があるのですから、母の心的狀態が彼女の胎内の子供に著しい影響があると云ふことは當然です。子供が胎内にある時ばかりでなく、生れた後に於ても、矢張り、母の心的狀態は子供に影響します。

授乳して居る母が非常に强い刺戟を受けたり、心に何にか感怖を感じたりするなら

ば、其の結果が嬰兒の肉體に現れます。則ち、嬰兒が消化不良に陷つたり、痙攣を起したりすると云ふのは、母體の神經が痙攣を起した結果、母乳に化學的變化が生じ其れが嬰兒の健康を害ふのです。實に、嬰兒の全體の環境は母であります。嬰兒の生命を維持するものは母の血液であり、彼女の肉體の細胞であります。母と子と肉體は二つになつても其の生存は全く一つであるのです。母が苦しめば嬰兒が苦しみ、母が精經衰弱に陷れば嬰兒も神經衰弱に陷り、そして、それは嬰兒の肉體を害ふばかりでなく、其の精神の上にも多大の影響を蒙ることは云はずもがなであります。

ですから、意志の薄弱な、あらゆる事物に對して適確な判斷力を缺いて居るような弱年者が母になることはあらゆる點から次代のために不利であります。

實に、兩親の賢愚が次代の運命を定めます。兩親は賢くなければならぬのみならず猶又、種族的の立場から並びに個人としての立場から子供を欲望して居なければなりません。欲望して居ない處へ生れる子供は不幸です。勿論、子供に對する欲望はあら

ゆる生物に深く〳〵植へ付けられてある本能ですから、相當の年齡になれば普通の人なら皆起す慾望ですが、まだ、弱年のうちは其の欲望が起りません。

親に對する尊敬及び愛慕の念を缺いた子供が此の頃續々と增加するのを見て、人は驚きの目を見はつて居ますが、さう云ふ子供は大抵の場合ひ、少しも慾望されて居ない處へ生れて來て居ます。つまり、親から見れば其の子供は厄介者であり、そして、子供の立場から云へば、自分は希望されたのでもなく、希望して居なかつたのであるから自分を生存せしむる何等の用意が親の方にはなく、唯、偶然に、乃至は、親の淫樂の結果、自分は此の苦しい世の中へ投り出された。何處に、親を尊敬したり慕つたりする理由があるだらう？　と云ふことになります。そして、これは個人の幸福と云ふ立場から、國家の立場から、又、種族的の立場から、決して忽にして置くことの出來ない重大事です。不用意に結婚を斷行して親になることの恐しさに付て、人は今覺醒しなければなりません。

昔は凡ての子供が尊敬と感謝の念を持つて親に對さなければならぬように敎へられて、そして、子供は其れを守つて居ました。けれども、此の頃の多くの子供はさう云ふ態度を持つことを拒みます。其の原因の一ッは近代の所謂個人主義的思想にかぶれたのであり、もう一つの大きな原因は今も云ふ通り、親に對して感謝すべき理由を見出さないからです。

けれども、人としては充分に成熟し、相當の用意をしてから親になるならば、子供は此の人生の明るい方面のみを經驗することが出來、自分を養敎育する兩親の苦心を思ふことが出來るようなすなほな心の持主となり、敎へずとも親に對しては尊敬と感謝の念を持つようになると思ひます。

動物は下等であればある程不用意のうちに子を持ちます。そして、其の子は生れると直ぐ、又は、生れて幾日も經過しないうちに自分で自分の仕末をします。高等になればなる程、親に養はれる期間が長くなります。

人間に於ても、文明が進めば進む程、親の社會上の位置が高ければ高い程、子供として親の世話になつて居る期間が長くなります。貧乏な人の子は十二三にもなれば自分の食べる位ひのことはして行きます。けれども、親としての義務を充分に果そうとして、子供を大學に迄も送り、其の上に洋行でもさせるならば、子供が自活するようになるには三十歳になつてしまひます。そして、それが進步の順當な道程であります。ですから、國家は次代の優良を望むならば、あらゆる施設をして、國民の少年期及び青年期を長くする工夫をすべきです。

家庭に入るや否や婦人は其の進步を阻止されてしまうと云ふことは一般に稱へられて居ることでありますが、まだ、家庭を持つ資格なくして家庭を持ち、親となるの用意なくして親となるから、つまり、荷が重すぎて婦人は萎縮してしまうのです。其の日々々々に必要な仕事も仕きれずに毎日周圍の事情に引きづられて喘ぎ〳〵日を送つて居て、どうして進步の餘地が其處にありませう。

精神的にも生理的にも充分に成熟して、相當な技能を備へてから結婚をし親となるならば、彼女の精力には常に餘裕があります。子供に乳房を含ませながら、哲學の問題を考へることも出來ます。裁縫しながら社會問題を考察することも出來ます。家事育事の雜務の一つ〳〵が皆有益な經驗となつて彼女の頭の中に取り入れられます。かくして、彼女の頭腦は年と共に益々熟して行きます。

早婚した婦人が日々の仕事に引きづられ、喘ぎ〳〵日を送つて、四十歲にもなれば最早老境に入つて、異性に對する愛を感じる精力も權利もないやうになり、良人とは名ばかりの夫婦であり、子供等からは時代後れな厄介な母となり、社會にも無用な人間となるに反して、知力的に生理的に充分成熟してから結婚した、所謂晚婚の婦人は一生涯良人との愛の生活を營み、子供等の良友であり、且つ又、有力なる一社會員として社會からの尊敬も受けることが出來ると思ひます。



アリス・ポール孃の努力

婦人參政權の獲得

婦人參政權が婦人の幸福のために有効なものであつてもなくても、又、歐米婦人がいよ〳〵參政權を獲得するに致つた其の方法が當を得て居ても居なくても、とにかく其れが非常な努力の結果であつたと云ふことは疑ふ餘地のない事實です。

何事にも成功と云ふことは努力の結果です、如何に美しい文章を書いても、どんなに立派な演說をしても其處に努力と云ふことがなかつたならば、それは一時の遊戯に終ると云ふことになります。物事は努力によつてのみ實行に移されるものであると云ふことを私共は忘れたくないと思ひます。

で、今、此處では、歐米の婦人が參政權を得るに付いてどの位の努力をしたかと云

ふことの一例としてアリス・ポール孃のお話を少しばかり致しませう。

英米に於ける婦人參政權獲得の第一戰に於て、最大なる努力を惜しまなかつた者はスザン・アンツニー孃でありました。そして最後の戰ひに於て最大な努力をなしたものはアリス・ポール孃であります。そして其の二婦人がクエーカー敎徒であつたことは有意義なことであります、クエーカー敎徒が虛飾を排し何時も自分の目的に直行することは世間周和の事實であります。そして、勿論直言直行を成功せしむるものは努力です。

これは餘談ですが、クエーカー宗の祖先たるフオツクスと云ふ人は無駄な習慣に對して非常な反抗心を持ち、憤然立つて其の無駄を除去しようとして努力し、其の努力が結晶してクエーカー宗となつたのです。フオツクスを立たしめた動機となつたものは何にかと云ふと、其の當時英國に於ては途上で友人に會合した場合には、その最寄りの酒店に入り酒を命じて相手に馳走するのが例でありました。で、その返禮として馳

走された方が、又、酒を命ずるのです。けれども、相手が、もし、その酒を呑まないならば、呑まない罰として酒代を支拂はされるのでした。で、其の習慣に一度ひつかゝつたフォックスは其馬鹿々々しさに憤慨して其の晩は終夜眠られなかつた。そして直ちに彼は其の翌日から傳道に從事したと云ふことです。

クエーカー教徒は此のフォックスの精神を皆體得してゐるものと假定して不都合ない。アリス・ポールもスザン・アンソニーも亦いはゞフォックスの生れ代りであつたのです。實に其の徹底さは敵も味方も尊敬しないわけにはいかなかつたのです。

一體、アリスは自分のことを話すのを好まないと云ふことです。そして、自分のして居る仕事に全心全力を集めて居ます。「人がアリスの經歴を聞きに行くと彼女は「私はニユージエシーのムーアスタウンで生れました」と云つたぎり何にも云はないのが常だそうです。彼女は自分の子供の時や少女時代を全く記憶して居ないかのやうに思へると云ふことです。併し、それは決して不思議ではない。彼女は過去八年の間、其

の一年は前の一年を呑んでしまつたかのやうに、目の前のことに熱中して働いたのです。彼女には過去を省りみるひまがないやうに忙しいのです。

或る人が、『どうしてあなたは婦人參政權論者になつたのです？』と聞いた時に彼女は『私は婦人參政權を信じなかつた時が私にあつた事を覺へません』と答へました。アリスの母の話に『私の夫は何でもむづかしい問題や、嫌やな事件が起る度にいつも娘にそれを押しつけてしまひます。』と云つたそうですが、これによつても如何に彼女は幼少の頃から難問題の解決に苦心して自己を修養してゐたかゞ解ります。

彼女の教育及經歷に付いて云ふならば、人は彼女の若さと比較して驚かされてしまふでせう。彼女が婦人國民黨の黨員となつて働く前に彼女が保つて來た位置と、そして、彼女が獲得した大學の學位とを一々擧げて見るならば其の表はかなり長いものになります。しかもそれが國際間に渡つてゐます。第一には一九〇五年にスワースモーア大學に於て文學士の稱號を得て居ます。一九〇七年にはペンシルベニャ大學に於て

マスター・オブ・アーツの學位を得、一九一二年には同大學に於て哲學博士の學位を得ました。それだけ得れば普通の若い婦人ならば滿足してしまふ筈ですが、アリス・ポールはそうでなかつたのです。

其の外にも紐育の慈善學校を卒業し、又、社會奉仕事業研究のためにウッドブルックセトルメントに入り、後には英國バーミンガムの大學に於て同じく社會奉仕學を研究しました。それから、ロンドン大學に於て社會學及び經濟學科を卒業しました。それに加ふるに、紐育のカレンジセトルメントへ住み込んだり、英國バーミンガム慈善會の訪問係りとなつたり、後にはロンドンの慈善會の書記となつたりしてました。或は又　ロンドンのクラーケンウエルに於て社會奉仕の學校の訪問係りにもなり其の外、フオクストンに於ける慈善會の婦人部の主任にもなりました。

こう云ふように彼女は非常な努力其のものでありました。そして、これだけの經驗と學力とをもつて彼女は婦人參政權運動にとび込んで行つたのです。そして、その第

一の經驗はパンクハースト一派に加つて活動したのです。尤も、彼女の仕事の始まりはむしろ受動的でありました。たとへば、婦人參政權論者の會合に出席したり、或ひは事務員のようなことをしてゐたのです。

そして彼女は一度米國へ歸ろうとして既でに切符迄も持つてゐました。其の時にパンクハースト一派がそれを引きとめて議會に對する請願委員になつて呉れと賴みました。彼女をも加へた一團、百人を引きつれてパンクハースト夫人が國會へ行くと其の入口で彼女等は皆捕縛されました。

此の時にアリスがルシー●バーン女史に出合つたことは非常に意義あることでした。ルシー●バーンも亦アリス程ではないが、矢張り相當の經驗と學力を持つた婦人です。これがためにアリスは切符迄買つて居ながら裁判が落著しないために米國へ歸へることができませんでした。そのうちに事件は不起訴になりましたが、それ以來、二人は相助け合つてゐました。二人はスコットランドのグラスゴーに於て大活躍して、又

捕縛されました。其の次にはエデンブラに行き、同じく活躍の結果、三度目に捕縛されました。その次にはロンドンの貧民窟の一ッベルモンドセーへ行き、一人の代議士の當選を破るために活動して、又々捕縛され三十日間の刑に處せられました。此の時です監獄内で食事を抗んだのは。ツイに、それが彼女の健康を害して一九一〇年正月に彼女はとう〳〵米國へ歸つて來ました。

この時には殆んど病人のようになつてゐましたけれども、其の後英國での經驗を基礎として目覺ましい運動をアリス●ポールは米國で開始しました。處で米國婦人は英國に於けるような其の運動方法に始めは贊成しませんでした。止むを得ずアリス●ポールは各有力者を訪問し始めました。第一に訪問した處は米國々民婦人參政權協會で其の次にはアナ●ハワード●ショウ女史及びハリオット●スタントン●ブラッチ女史及びメリー●ウエーア●デンネット女史等でした。その次にはフイラデルフイアに於て開會された米國々民婦人參政權協會の會議に出席して、そしてジエン●アダムス女

史と大に論議しました。
そこでアリス●ポールは婦人參政權を認めさせるに必要な憲法修正案を通過させるためにワシントンへ行つて運動する入費を自分一人で造ると提案しました。で、アダムス女史はアリスの其の提案を米國々民婦人參政權協會へ提出して、そして其の承諾を勸めました。協會側では直ぐに其れを承諾して、そして委員を選みました。
で、アリスが委員長となり、ルシー●バーンが副委員長となり、クリスタル●イーストマンが委員となりましたが、後にワシントンに於て、ローレンス●ルイス夫人とメリー●ベーアド夫人が其の委員に加はりました。其の前にアリス●ポールは金を集めに單身フイラデルアイアに行つたのです。
ローレンス●ルイス夫人はアリスをすつかり信じて自分の名と所有の財產全部を提供した上に猶金を集めに歩きました。そして準備が全部とゝのつた上でアリスはワシントンへ運動に出かけたのです。一體アリス●ポールは瘠せた弱々しい婦人で、其の

上に、衣服などに氣を留めないことも一つの理由ですが、又、着物などを買ふ餘裕もないのでせう、ニーナ・アレンダー夫人の言葉を借りると、『或る日曜に見知らぬ婦人が訪問した、彼女はうす汚たない、しかも、寒さを防ぐことも出來ないような着物を着て、小さな色の褪せた帽子をかぶり、その體の小さいことは私の指よりも大きくないだらうと思ふ程小さい女であつた。訪問の目的は簡單であつた。餘計な文句は一言もなかつた。』と。けれどもその訪問者が去つた後でアレンダー夫人親子は彼女の主張の大なることゝ、その問題の重要なることゝ彼女の微力なことを對照して呆氣にとられたと云ふことです。けれども、この乞食同樣な風采をしたアリスの訪問した後はいつゝも黄金が光つてゐました。則ち、義損金は續々と集まつたのです。アリス・ポールは何事にも困難を困難と思ひません。彼女は信仰を持つてゐました。自分のすることは正しい。正しいことには人は敵し難いと云ふ信仰を。

今迄、そう云ふ問題に付ては少しも考へて居なかつた人々が喜んで金と勞力を提供

するのは彼女に或る力があつたに相違ありません。そして、それは彼女のクエーカー宗の誠意であります。それが彼女の一言一句を通じて光つてゐたからです。恐らく、彼女のやさしい體、けれども強固な目的の裏面には献身と云ふことが光つて居たでせう。かくして米國婦人参政權運動は先づ大體に於てクエーカー教徒であり、クエーカー宗の精神の權化であるスザン・アンソニー女史に始まつて、同じく其の精神の權化であるアリス・ポール孃の努力によつて、完成されたと云つても不都合ないと私は思ひます。私共日本婦人に今日最も必要なものは此の誠意ある献身的の努力です。

新刊

◎國際日本の敎育　原田實著

原田實氏の著作に接していつもながら其の眞摯な態度と考察の綴密と着眼の適確なことに感服させられます。今日、私共の目に觸れる多くの著書は、議論のための議論として讀むには相當の價値があるでせう。けれども其の態度の不眞面目さと目的の偏狹なのには度々失望させられてしまいます。さう云ふ著作の多い中に原田氏のものは全く米迷界の顯であるような氣がします。各章が、否、各句が眞摯な考察と熟慮と確實な着目等をもつて最も健實に編み合せられたものであります。新時代の青年男女の必ず讀まねばならぬ書物であると信じます。（定價一圓九十錢）東京神田區中猿樂町十七　近代文明社發行



消費組合運動の地理的及び統計的配置の研究

ジード

ロッチデールの先鋒者達が自分等の必要を滿す爲に工夫した組合の標式が組合に對す努力の種子となつて、それが凡ゆる國に採用され、その國の周圍の事情に從つてその形を變へ、そして活動の色々の形と成つて驚くべき多方面に出生して行つた其の經路を見る時に私共は驚嘆せずには居られません。實に、その種は凡ゆる國に於て、極寒のアイスランド及びラブレーダーに於ても、又は太平洋中の熱い島國に於ても生へ榮へて居ります。併し、不幸にして消費組合に關する統計は甚だ不完全なものであります。

各國に於ける組合の數は可成り、正確に知られて居りますがその會員の數が說明されて居る組合は少ない。そして最も重要な數字なる賣上高の知られて居るのは尙少ないのであります。たとへば、伊太利に於ける組合は最も著しい進歩を遂げて居りますが、併し、正確な統計はあ

りません。組合が同盟聯結されて居る國々に於てゞすらも報告を出して居りません。故に示された數字は實際の數字よりは以下であります。

併し英國とスヰツランドのみは凡ての組合が國家的同盟となつて團結して居ります故にその統計は稍完全であります。

併し、一九十四年に次のような數字が示されました。

國名	組合の數	組合員の數	一千の住民に對する比例	賣上高
英諸島	一、三八五	三、〇五四千磅	二六四	八八、〇〇〇千
獨逸	二、三七五	二、〇〇〇(?)	一二一	二八〇〇〇
露西亞	一三、〇〇〇	一、五〇〇	三四	三二〇〇〇
佛蘭西	三、二六一	八八一	九〇	一二、八四〇
墺地利	一、四七一	四二三	七〇	七、二〇〇
伊太利	二、四八一	四〇〇	四三	七、二〇〇(?)
瑞西	三九六	二七六	二九〇	五、二四〇

丁抹	一、五六〇	二五〇	三五〇	六、〇〇〇
匈牙利	一、三〇〇	?二〇〇	四〇	三、〇〇〇
白耳義	二〇五	一七〇	九〇	一、九二〇
瑞典	六〇八	一五三	一〇八	二、四四〇
ポーランド	一、五〇〇	一二〇	三三	一、六八〇
和蘭	一三五	九九	七二	一、〇四〇
フヒンランド	五一二	九七	一二〇	二、五二〇
西班牙	二〇〇	四〇	三〇	八〇〇
諾威	一七二	三九	四二	五五〇

之等の數字は戰爭に依て、豫想されて居つたのとは反對に、多大の影響を受けて居ります。殆ど凡ての國に於て、交戰國に於ても中立國に於ても著しい增加を示しました。フキンランドや露西亞やジヨウジヤやウクラニヤに於ける增加は非

常なもので之れは意外の現象であります

中立國に於ける組合の増加に關しては、それは一般に好景氣であつたと云ふ事實から說明が就きます。けれども、交戰國に關しては殆ど全部の壯丁が動員されたのですから其處に著しい消費の減少があつたらうと豫期されます。處が家庭に留まつて居つた人々は賃銀增給又は特別手當の爲にその消費を多くして居ました。其の上に一般の物價騰貴が矢張り公衆を組合の方向に押しやつたので、組合員の數は增加しました。併しこの增加は恐らく永久のものではないかも知れません。が、とにかく、次の數字が示す如く增加して居ます。

國名	組合の數	組合員の數	賣上高
英諸島	一、三六四	三、八四六、〇〇〇	一五五、〇〇〇、〇〇〇磅
露西亞	二五、〇〇〇	一二、〇〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇、〇〇〇
佛蘭西	四、〇〇〇	一、八〇〇、〇〇〇	三二、〇〇〇、〇〇〇
獨逸	二、五〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇、〇〇〇

瑞西	四七六	三五四、〇〇〇	一一、六〇〇、〇〇〇
フインランド	七三七	二〇一、〇〇〇	二四、六〇〇、〇〇〇
伊太利	二、三五〇	五〇〇、〇〇〇	二六、〇〇〇、〇〇〇

（露國のルーブルは、標準價額に依つて取つてあります。若し時の爲替相場でするならば九十九パーセント引去らればなりませんから。佛蘭西に關してはその侵害された地域の統計が未だ完成されて居りませんからここに示された數字は只概算に過ぎません。）

實はこの表に猶數千の消費組合を附け加へねばなりません。

バルカン諸州及びホルトガルに於けるもの、或ひは北米合衆國、カナダ、日本印度、濠州及び雪に圍まれたアイスランド等に於ける一千ばかりのものをも附け加へねばなりません。全世界を通じての消費組合の數は少なくとも三萬はあります。そしてそれは一千萬の會員と二十億圓ばかりの賣上高があります。そして此處に、忘れてならない事は各組合員が普通家族を代表して居る事であります。何故なら未婚者は組合に加入する理由を比較的持つて居りません。そして勞働階級は普通大家族を持つて居ります。それ故この一千萬の組合員は四千萬から四千五百萬と云ふ一大國家と同等の人口を代表し

て居ります
賣上高に關しては若しそれを世界の何萬億と云ふ取引に比較すればそれは明かに極めて小さいものでありまして歐洲に於ける人口の一人頭に辛じて四圓以上ではありません。けれども、もし、人がこの運動の始められて以來未だ一世紀の四分の三も經過してないことを考へるならば、そして世界の歷史に於ては、人の一生にも足らぬこの短い期間を思ふならばこれ等の結果を輕んずべからざるものであるのみか、寧しろ組合員の希望の正當たるを證明するに足るものであります。

組合の發達した主なる國々に關して二三言申しますならば、彼等は協同に向ふ大道を沿ふて進んで行くに、其の速度はいろ／＼でありました。大英國は最初から廣くそして遙かに進みました。組合に關する英國の歷史を讀んだ後の今それは驚くに足りません。英國の組合員の數は四百萬以上の家族（一九一九年に於ける四、一三一、四七七）でありますがそれは消費組合が餘まり發達してゐない、アイルランドを除いた大英國の人口の殆ど三分の一であります。

或る國では人口の半分、或る國では人口の四分の三が組合員になつてゐます。中にはリーズの如き大都會もありますし又、ケテリングとかデスボローとか云ふ小都市もありますが、それなどは殆ど其土地の全人口が組合員になつてゐます。

一九一四年に於ける組合の平的員數は

二千二百（佛國は三百九十）を越へて居つて各組合は皆、强固でありました。一萬以上の會員を有する組合は英國に七十ありますが、その中の一つ、リーズの組合は七萬の會員を有し、その賣上高は二千四百萬圓ばかりであります。之等の賣上高はその組合の會員の力と同等の力を示してゐるものです。一九一四年の賣上高は八億八千萬圓以上に上つて居りましてそれは一組合に對する平均高六十四萬圓（佛國は四萬圓ばかり）に當つて居ります。そして、一人に對する平均高は二百九十五圓ばかりになりますがこの平均高は如何なる國に於てよりも遙かに高いものであります。（佛國の平均高は約百〇六圓五十錢であります。）

この平均額の高いと云ふことには二つのものが含んで居ります。其の一つは組合は單なる雜貨店であるばかりでなく、如何なる種類のものでも供給すると云ふこと、そして、もう一つは會員はその組合の店に對して非常に忠實であります。これは組合員の善良と云ふことゝ、組合に對する熱心さを確實に證明するものであります。可成りの數の英國の勞働者は自分の受け取つた賃銀の全部を自己の屬する組合の店へ運びます、そして外部に於ては殆ど金を費やさないようにして居ます。

今、擧げた表の中には英國とスコツトランドの同盟に依てなされた五千二百萬磅以上の賣上高が含まれて居りません。

何故なれば、それを含めるならば重複する恐れがあります。猶又前述の數字は二億磅以上の取引額を有する協同銀行をも含めてないし、又四千萬磅の保險價額を有する協同保險組合をも含めてあまりせん。若し之等の全體が總計されたならば約四億磅に達するでありませう。

獨逸は先づ前にも述べて置いた通り協同信用組合の國であつて、二百五十萬の會員を有する一萬八千の信用組合が存在して居ますが、消費に對する組合に關しては第二の位置にあります。けれども戰爭前に於ける進步率は大英國のそれよりは餘程高くなつてそれは次の表の如くになります。

	英國 會員數	英國 賣上高	獨逸 會員數	獨逸 賣上高
一九〇二	一、七〇九	五〇、〇四〇、〇〇〇磅	五七五	七、〇四〇、〇〇〇磅
一九一四	三、〇五四	八八、〇〇〇、〇〇〇	一、七一七	二六、三六〇、〇〇〇

獨逸の組合は過ぐる十年間にその會員の數を三倍にし、そしてその賣上高を殆ど四倍にしました。が、同時に英國の組合は各々の場合に於て、唯、七割五分の

増加を示して居ります。この比較を見るに常つて私共が考へて置かねばならない事は、第一に如何なる運動も凡ゆる有機體の如くその初期に於て増加率が高いものであること、そして第二には獨逸の人口は英國の人口よりも五割多いと云ふことであります。

とは云へ、獨逸に於ける消費組合は尚英國の消費組合に比してずつと後れて居ます。何故なれば獨逸の會員の數は英國の約半分であり、その賣上高は英國の三分の一にも上りません。そして、獨逸には多くの重要な組合があつてそれ等には巨大と云ふ形容詞が誇張でなく附せられて居ります。その中の著しいものは八萬の會員を有するハンブルグの組合、六萬五千の會員を有するライプツヒ組合であつて、その上に位ひするのはブレスラウ組合でありますが、これは世界を通じての最大なるもので、十萬の會員を有して居ります。

尚概して言へば獨逸の一會員に對する賣上の平均高が英國のそれに比較して非常に低く僅か十五磅十一シルリングでありますがこれは會員の不忠實に歸するのではなく、この國の組合はブレスラウに於けるが如くその取引を雑貨に限つて居た事に歸すると云へませう。（つづく）



世界一周旅行を終つて

山田嘉吉

外國を旅するに當つて最も重要な心の用意は、本國に坐して居ては到底得られないことを見聞して來やうとすることだ。つまり行く先き〳〵の國の人情風俗を見てとつて來なければならない。それには相當の豫備知識が必要であるのは勿論だが。

昔から英國人は其の點に關しては熟達して居た、英國人程、外國を旅して其の國の事情に早く鋭く通じ得る國民は外になかつた。けれども、英國人は自分が觀察しつゝある國と自國との關係、及び、その國と他國との關係に付て考慮して、もし、自國のために或る不利益があるならば、依怙な報告をしたと云ふような不公平があつたが、とにかく、英國人に鋭い適確な觀察眼があつたことが、英國を非常に利して居た。

此の點では、何處の國民も英國民に匹敵出來なかつた。獨逸國民も其の能力を缺いて居たゝめに獨逸が非常に損をして居たことに氣付いて、其の方面の能力を

養はうとして懸命になつた結果、あのやうに有力になつたのだ。其の點に關しては我が日本國民はまだ〳〵無能力者だ。適確に他國を觀察すると云ふ能力を全く缺いてゐる。そして妙に敵意をもつて居て、色眼鏡をかけたまゝで視察を終始するか、さもなければ、最初から心醉してしまつて、つまり、呑まれてしまつて居つて、公平にものを見ることなどは到底出來ないと云ふ場合もある。且つ、又、彼等に豫備知識のないことが彼等の眼を正確にしない。言語の不便も彼等の充分なる活動を妨げて居る。

或る特別な一つの事柄を調べるにはそれでも不都合はないと云つてゐる人もある。或る程度まではさうかも知れぬ。けれども、それでも矢張り一般の事情を見る目がないならば多方面に非常な不利益がある。一例を擧げて云ふなら、最新式の工業用の機械が出來たからと云つて直ちに、その機械を使用して居る工場を視察に出かけ、そして買つて來る。けれどもそう云ふ最新式の機械を買ひ求めて來て、そして製造業を始めても、其の結果は到底其の機械を發明した本國の使用の結果とは大變な差がある。なぜかと云ふと、最新式の機械を發明するには既でにその最新式の機械を發明せねばならぬ必要を、以前の古い機械を使用して得た經驗から獲得したので、云ひかへると長年古い機械を使用した結果、最新式の機械が生れたわけである。

であるから、今迄に古い型の機械ですらも使用した經驗のない者が突然最新式の機械を買つて來ても、大經驗を要する其の複雜な機械を有効に使ひこなせるのでない。うまく行かないのが當然であるかも知れない。

で、これはこう云ふことになる。機械のみがものを造るのでないから、工場視察をする人は機械を視察すると同時に工場の經營者、機械を使用する人、及びその工場に働いて居る雜勞働者の經驗、人品又は彼等のいはゞ人生觀等を同時に視察する必要がある。

數字や說明書に現れて居るものはほんの表面の事實で、これはどんな無經驗の人でも、直ぐ手に入れられる報告であるが、其の裏面に橫つて本當に機械を動かしてゐる動力は、如何に聰明な人でも、唯單なる旅行者では察知することの出來ない事實である。そして、その事實を捕へなければ到底完全に近い報告は出來ないわけだ。處で、この事實は大部分その國の人情風俗から來て居るものであるから、少なくとも十年內外其の國に住んだことのある者でなければ到底其の目的は達せられないわけである。

先日も或る地方の人が來ての話に『東京の或る農業硏究會の會員が其の地方へ行つて農夫の狀態を調べるのに役場や其の他の官憲へ行つて統計や報告を貰ひ受け、農夫に付ては何事も調べなかつた。實際彼等には調べる知識もなかつた

のであらう。それでも、都會人が農家の狀態を知り得たと思つて居るのだから餘まりに馬鹿々々しい』と云つて居たが、我が海外旅行者の多くも、それと同じく諸官省や諸工場の報告や統計を貰ひ受けそして淺薄な印象を其れに付け加へて製作した報告を持つて實狀の報告だとして居るのだ。日本人が日本人のことを報告するのにもそれでは到底實際の狀態は分らないのに人情風俗、引ひては文明の程度の異つた外國の事情を此の方法で報告したのでは、事實に合つて居ないのが當然である。

さう云ふ種類の報告ならば海外迄わざ〳〵大金を使つて行かなくも統計表や說明書や官報などを取りよせれば充分である。もし、又、機械ならばキャタロッグで充分に分るわけである。大金と、貴重な時間とを費して、海外へ視察に出かける以上は、さう云ふものでは得られないつまり、書いたものでは知ることが出來ないものを見て來なければならない。何處の國にも書いたものでは分らない、併し非常に貴重なる事實があるから、それを得るのでなければ全く金と時間が無駄になるだけだ。無駄になるばかりではない。誤報の結果は却つて飛んでもない間違ひを起すことがある。

私は以前二十四ヶ年間歐米に生活したそして今度、十七年目で再び短時間の視察旅行をした。一ヶ所に二日以上めつたに滯在することが出來なかつた程忙しい

旅行であつたが幸ひに以前の永い海外生活の習慣と經驗が新聞雜誌では到底知り得ない事實を觀察し得たと私は信じて居る。

これは餘事だが、ざつと計算して二千人内外の日本人が、今、世界を漫遊しつゝある。そして一人が少なくとも一日平均、船賃汽車賃等を入れて百圓内外の金を費して居る。一日二十萬圓一ヶ月には六百萬圓、一年には七千二百萬圓の金を我が國民は外國へ落して居る。其の莫大な金額と貴重な時間とを我々日本人は外國へ撒き捨てつゝあるのだが、併し、果して、その報酬として、どれだけのものを持ち歸り得るか? 遺憾ながら其の餘りに少ないことを私は知つてゐる。

獨逸人の如きは海外に出る時は、必ず一つの商賣を持つて行き、歸へる時には必ず商賣を持つて來る。かくして旅行の入費は一種の投資であるから必ずいつかは回收する。我が國の旅行者の或る者もそのつもりで居るかも知れないし、又、そうしたと思つて居る者もあるかも知れないが、併し事實はさうでないらしい。

種々の方面からの海外旅行者と話して見たが、大抵の場合失敗談にあらざれば人から又聞きのいゝ加減の話であつた。聞いた話を先づ事實として、探ぐつて見ると、それが少しも事實に合つてゐない。これはいろ〳〵の原因もあるだらうが、重もに言語の不充分や、人情風俗の無理解に原因してゐる。けれども、金を浪費

するにはそれで不都合はない。從つて淚費者が多いのだ。故に、彼等が共通に持つてゐる知識は食物や、旅館のこと、又は遊覽場のことだ。且つ、又、甚だ遺憾だが、此處に付け加へねばならないのは婦女子に戯むれた話である。こう云つては餘りに私が海外旅行者を罵倒するようになるが併し、決して徒らに罵倒するのではない。どこへ行つても、其れが事實であることを旅館からも一般人からも常に聞かせられる。

實に、唯、單に海外をブラックと云ふのでなく、視察して歩くと云ふことは随分難しい仕事であるには相違ない。

一寸前置を云ふつもりで、少し長くなつたが私は私の觀察し得た、つまり、新聞雜誌では知ることの出來ない、一二の事實をお話しするつもりだが、それは次號に讓るとして、とにかく、此處に、お斷りして置くことは、殆んど凡ての私の觀察は一般に傳へられてゐる事實と正反對のように思へるかも知れない。一例をあげれば人は世界の平和、世界の平和と云つてゐるが、併し歐米各國何處へ行つても、表面の言葉と事實とは全く違つて居て、平和と云ふような氣分は何處へ行つても見當らない。それ處ではなく、一種の戰爭の繼續である。又米國は人道が最高に發達した國だと、米國人も他國人も許して居るのだが、併し、米國程私の觀察によると、國民として非人道な國民はない、又、英國は一國としては恐しい

國である。けれどもやつぱり世界で重きをなして居る理由が、今、猶英國政府ではなく、英國々民にはある。フランスが獨逸を恐れることは、前よりも却つて、其の度がズッと高い。獨逸の社會黨共和國は革命以前の獨逸よりも却つて資本主義的であること、過激主義は遠くから眺めて居るのとは全然反對に、其の勢力がない事は豫想外だ。けれども人間生來の盲目の本能の叫びが過激主義の名を借りて革命を起したり王國を倒したり資本主義を呪つたりしてゐるのだ。

　と云つたやうな事を云ふと、これは皆今迄に傳へられた報告とはまるで正反對であるように思へる。が、私の觀察した處では、勿論、表面に現れた事實を無視して云ふならばさうなるのだ。此處でもう一度お斷りして置きたいのは私の旅行日數が餘まり僅かであつたために、私の過去の海外生活の經驗と彼等の習慣を相當に熟知して居る結果、直覺的に得た觀察を充分に證明する事實をあつめる時間がなかつたことが遺憾である。けれども、百聞一見に如かずで、私が今迄に聞かされて居たことよりも自分で見て來たことを事實と信じる。



小春日

原田琴子

○

けふもまた
かなしき惱をいだきて
君去りし門の戸にぞよる
心は重く閉されて
たゞ一すぢにそれのみを思ふ
あはれわがかりそめのたわむれ心
君がみ胸にむけて放ちたる冷たき言葉
打默しさりにし君の
うしろ姿ぞ今は
かなしくもわが心を亂す
歩みつゝいかにか君は
そのことをおもへる
わが心悔とかなしみに
今はああ身も世もなきに

○

秋はさびし
ものみなの

あまりにもすが〱しければ
わがくらき鬱憂の
まして
やるすべもなく——

十月の晴れわたる空
陽をうけて
匂はしき梢
はせよりてその樹によれど
あゝわが心うるほすべき
かんばしき
酒はあらず
たど〱と墓地を行き
いとせめて
碑銘をよむ——

〇

小春日の
縁にゐて

小春日

もの縫へば
いづこよりかきこゆ
追羽根の音
針の手を止めて
ふとその音にきゝ入る

塀の外にたかく揚がる
白き羽根
うらゝけき陽の中に
ひるがへり落つる白き羽根

あはれわがさびしき心いつの日か
かのごとくのどかに空に飛ばむ。



婦人の洋裝流行に對して一言

婦人の洋服が大分流行して參りました。そして、この頃洋服を着始めて、まだ、洋服に付ての多くの經驗を持たない人達は、たちまち、洋服の讃美者となつて「不活動的な日本服は全然捨てゝしまへ」とさへ云つて居ります。

私は洋服がいけないとは決して申ません、日本服に限るとは決して申ません。其の人其の人の嗜好により境遇によつて其のどちらでも差し支へないと思ひますつまり洋服を着て見たいとか好きだとか、又は、自分の境遇には日本服より洋服の方が都合がよいとか云ふならば洋服になるのも結構です、色の配合なども日本服よりは自由であり、又、外出着としては遙かに洋服には日本服に優つた處もあります。

けれども洋服に付ての多くの經驗を持たない安價な洋服讃美者が無暗みに洋服の効能をならべたて、經濟の點から、又、便利の點から或ひは、又縫ひ直す手數がはぶけると云ふ理由から洋服を奬勵する時に、此處に一言なきを得ないのであります。

洋服の讃美者が殆んど異口同音に云つて居ることは「洋服ならば一着揃へて置けば其れで何にもいらないが、日本服だと幾枚も幾組みも揃へて置かなければならない。一年に一度か、二年に一度位ひしか着もしない着物を入れた箪笥を並べて置いて、毎年、虫ぼしなどと云ふ餘計な手數をかけなければならないと云ふのでありますが、其處に一つの錯誤があることを私は認めます。日本服だからと云つて箪笥を幾棹もならべて置く必要が何處にありませう。

成程めつたに着もしない着物を幾枚も幾組みも入れ

た算術をならべて置く必要は少しもありません。けれどもそれは日本服そのものが悪いのではなく、澤山もつてゐることが悪いのです。餘計なものを造つて置く必要は少しもありませんが、それ〴〵の時候に適した衣服は必要です。暑い時は暑いように、寒い時は寒いように着心をよくしたいと思へば、春夏秋冬——春と秋は同じものですまされますから夏秋冬でいゝでせう——別な衣服が必要になります。して見ると、洋服讃美者が云ふように洋服も一着ではすまされないことになります。

もし、洋服が一着ですむならば、日本服も一通り、着物一枚と羽織一枚と襦袢一枚帯一本ですむわけです。けれども、それは却って不便、且つ、不經濟であることを私は自分の實驗によって知つてゐます。

私共が米國から歸つた當時、私は洋服よりも日本服の方が遙かに安く、且つ、造り直しの出來ることを喜びました。夫の着物に紺絣を一反買へば、夏のうちは單衣で着せて、秋になれば袷衣にして、冬になれば綿入れにして着せることが出來る。日本服は何と云ふ經濟なものだらうと思ひました。そして、それを實行しました。處が、單衣を袷衣に直す時は、まだ寒くはなし比較的、雜作ないですが、袷衣を綿入れに縫ひ直す時は困りました。裸體にして置くことは出來ず、『古洋服でも着て居て下さい』と云ふのですが、併し、隨分忙しい思ひをしなければなりませんでした。

それで、其の次の秋には單衣は其のまゝにして置いて、袷衣には別な反物を買ひました。冬になつた時には、又、別な反物を買つて綿入れを造りました。そんな手數をはぶくためには、單衣を幾枚も重ねたらどうだらうかとも考へましたが、それでは襟ばかり厚くなつて、とても不愉快であることに氣付きました。で、たゞ一時、不用になつた單衣や袷衣はあかを落して、たゝんでしまつて置きました。すると、やがて、又、廻つて來た春、及び、夏が大變樂でした。同じ布を夏も秋も冬も用ひて居れば一年でいたんでしまうのに、別々なものを持つて居れば矢張りそれだけ長く使へるから結局、同じで、唯、急いで縫ひ反す必要がないだけ樂だ。時間の點から餘程經濟的であると云ふことを發見

しました。さう云ふ意味で或る程度迄の數の着物があることは決して無駄でも不經濟でもありません。

其處で、洋服にした處が矢張り夏は夏に適したもの冬は冬に適したものが必要であるとするならば、洋服なら一着ですむと云ふ考へは嘘です。そして、先づ冬物で云ふなら、一冬着て捨てると云ふようなことをしない限り、冬に於て必要な毛織物などを日本の梅雨期や極暑期を無事に保存して置かうと思ふならば、それは大抵の苦心ではありません。毛織物の洋服に虫をつかせまいとする苦心は、到底一寸乾いた風に當てればすむ日本服などに比較になるものではありません。

一例を擧げて見るなら、獸皮で出來てゐる外套を、梅雨期と暑氣を通して無事に保存するには、ブリキの箱を造つて其の内部を充分に乾燥させ、勿論乾燥してゐる外套を中に入れて、嚴重に蓋をして、それからブリキの箱の繼ぎ目々々には紙を貼りつけて置くのですそれでも日本服の虫ぼしよりも手數がかゝらないと云へるでせうか。

それから、洋服には帽子がつきものです。帽子をみつともなくないようにするならば、これは非常に金がかゝります。日本製は何處となくぶざまであるから、舶來品を買はうとすれば、最も安いものを選んでも三十圓はとられます。そして、これも春夏秋冬一つではすまされません。これは日本服ならば全然いらないものです。

それから、靴です。少し穿きよささうなのを選むなら、二十圓します。下駄はどんなに高くてもさうはしません。一圓以下のものですまさうと思へばすまされます。

「洋服は經濟的だ」と云ふ考へが何處から出て來るか私は了解に苦みます。洋服は經濟的であると云ふのが錯誤であると同じように、洋服は縫ひ直さなくてもよいから其の手數もはぶける、と云ひますが此處にも一つの錯誤があります。成程、洋服は普通一般には縫ひ直すと云ふことをしません。それはミシンで縫つてあるし又、身體に合せて惜しげなく細く裁ち切つてあるから解いたり、外のものに縫直すと云ふことが非常に面倒です。縫直したくとも出來ないのです。これに反して

日本服は非常に經濟的に工夫してあります。細く裁ち切つてありませんから、解くならば殆んどもとの反物になります。ですから、大きくも、小さくも自由自在になり、古くなれば寝衣にもなり、一枚の着物にならない程、布がいたんで少なくなれば胴着にもなります。

私が、今、外出着の下着に使つてある布は今から三十五年前に七十一才で死んだ祖母が十七才の時に私の祖父と結婚する時の晴着です。それから、今、私がよそへ行く時も講演などする時も、いつもしめて行く帶は今年五十才になる實姉が十六才で嫁入りする時にしめたものです。昔のものは柄がこまかいので、今の私にも丁度よいのです。

日本服であればこそ何十年何百年前のものでも品によつては現在使用することが出來ます。これに反して洋服は大きなのを小さくするのなら不可能ではありませんが、併し、到底、日本服のように簡單に縫ひ直すことは出來ません。祖母、母、姉のものを利用するなどと云ふことは殆んど不可能です。

ですから、「洋服は縫ひ直さなくてもよい」のではない、縫ひ直しが出來ないのです。これに反して、日本服は縫ひ直し得る便利があるのです。他の言葉をもつて云ふならば、縫ひ直す特權が日本服にはあるのです。其れは特權でありますから、捨てたければ捨てゝもよろしい。つまり、洋服のように着ぞらしてもよい。新調したものを切れてしまう迄着て捨てゝ、又、新調しても一向差し支へないのです。

殊に、古いものを解いたり、洗ひ張りしたり、縫ひ直したりする手數をかけるよりも、もつと、生産的な仕事が出來る人は、何にも無理に古いものゝ手入れに時間をつぶす必要はありません。

又便利の點から云ふならば自宅始め自分の出入りする家が皆西洋式でない限り靴をぬいだりはいたりするよりも下駄の方がどんなに便利だかしれません。

私は、今日の日本の衣服が理想的だとも、又、其の取り扱ひ方も此の通りでいゝとも思つて居りません。洗ひ張りや裁縫に何とかもつと早く出來る工夫をしなければならないとは思つて居ます。けれども現今の洋服讃美者が餘まりに輕卒に西洋かぶれをするので、一

寸一言申ました。

古いもの丶洗ひ張りや縫ひ直しに時間をつぶすよりも、もつと、生産的な仕事をするとか、何か有益なことをするために時間を惜しむのならば、有意義でありますが、併し、さうではなく、唯、單に、勞を厭つて衣服の手入れを避けるために出來合ひの衣服で間に合せ、怠惰な生活に耽らうとする時に、それは墮落の第一であります。

古いものに全く囚れてしまつて、新取的の氣風が少しもないのにも困りますが、併し、唯、新しきをばかり追ふて、古いものに含有して居る得點をも見得ない上すべりも實際困つたものだと思ひます。

古いもの丶不便な點はズン／＼捨て丶行くのが進歩の道にかなつた正しい行き方ではありますが、同じ捨てるにしてもそれに付て一應の考慮を拂ひ、丁寧親切に凡てのものを扱ふことが女性らしい愛情の現れであり、それが、女性としての貴い點であらうと私は考へます。

回海外婦人界時報

婦人の職業指導者

紐育に於ける婦人職業紹介所に今回月二回の報告書を發行することになつたが、それは此の紹介所の仕事や婦人職業の狀態を社會に知らせようがためである。これは又單なる職業紹介所ではなく、婦人の職業を指導するに付ての事實を報告するのである。則ち、婦人が受けた教育と其の婦人が選む職業との關係を密接させることを目的としてゐる。それから、此の紹介所の相談係りが各所の大學や其の他いろ／＼の種類の學校や又は、知力階級の團體の代表者達から成り立つて居ることは、心強い極みである。

盲目醫者

ポーランドの盲目醫者　メラニー・リピンスカ女史は盲目者の教育に熱心であることに於て世界に有名であるが、女史は盲目生徒の負擔を輕くしたいと云ふ希望で米國の盲目者教育法研究のため渡歐した。米國に於ける自分の研究の結果は本國へは勿論、佛蘭西へも報告することになつて居るし、又、米國に居る間は、自分自身の理論と實驗とに付て講演をする筈になつて居ると云ふことであるが、不自由な身をもつて、猶、其の壯擧は尊敬に値ひする。

教育社會學講話（第十九回）

社會階級の研究

知者階級

「現代の具體化した思想のうちで、奇異に思はれるもの丶一つの例は、高等教育を受けた人々が富者の階級を特權階級として、常に、論及してゐることである。實に、此れは特權と云ふもの丶性質から云つても、又、其の範圍から云つても維持することの出來ない見方である。文學、科學、藝術及び知力的の職業から無限に畜積された最善のものを惠まれて居る各時代の少數の知識階級は、その人類に價値あるもの丶保管者として、單なる金持よりは爭ふべからざる、より大なる特權階級である。

「富者階級よりは知者階級の方が人數はズッと少ない」たとへば、合衆國に於ては、

五千弗以上の收入を持つ人の數が三十五萬人あるに反して、大學の卒業生は二十萬である。此の二十萬人の知者階級の無形の價値はぬきにしても、彼等の全體の力、及び責任は確に三十五萬人の富者階級のそれよりは遙かに大なるものである。富者であつて、そして知者である者が二三人でもあることが、全體としての知者と富者の適當な比較を造ることに於て私共を盲目にすることのあることを私共は警戒する必要がある。勿論、富者であつて知者であると云ふやうな場合もあるから。併し、巨大なる富を得た人は多くの場合高等敎育を受けた人でないと云ふことは充分に云へる。』と、ロバート●ウード氏は云つてゐます。

そして、又、『知者階級が我々の國民性と文明の發達に最大なる指導力であることは疑ふ餘地がない。大學出の人は全人口の百分の一以上を出ないけれども優秀階級の人名簿、則ち、紳士錄には何處の國でも大學生が五割以上を占めてゐる。』と或る學者は云つて居ます。

前に引ひたウード氏の大學卒業生の數はコルネル大學の敎授ウイルマックス氏が十五六年以前に公にしたものを基礎にしたものでありませう。處で、一九一四年に於ては、大學卒業生の數は二倍になつて居ます。そして、知者階級のうちには多くの知的職業に從事して居る人や、多くの工藝學校の卒業生も含んでゐます。その外にも亦獨學者則ち旅行や、獨學によつて先づ普通の大學生と同じやうに世界の最高知識を畜積した人が澤山あります。其の外、敎師、新聞記者、又は、いろ〳〵の種類の商人も、もし、さうする心さへあるならば自由に高等敎育を受けることが出來、そして、知力階級の中に這入ることが出來ます。

今は合衆國に於てはこの知力階級に加はる人が百萬人、則ち、五十人に付て一人の割合になつて居ます。中學以上に行かない人は知者のうちでも先づ二流に位し、そして、其の數はズッと多くなります。

高等敎育を受けた階級が則ち知者階級と稱せられるものでありますが、何處の國へ

行つても又或る程度迄は如何なる時代に於ても此の知者階級には必ず或る名稱が附せられます。たとへば、理窟屋とか、哲學者とか、人道主義者とか、文人とか、識者とか云ふように。處で、知者階級と云ふものは普通には、團體と云ふものを成して居ません。同窓會とか云ふものゝ外には。けれども、時代々々の社會心の土臺を造つてゐるものです。そして、その知者達が學生時代に造つた友情と云ふものがその社會心の土臺に活力を供給してゐます。そして、古い校舍とか或ひは學生の寄宿所などが、その活力の住所となつてゐます。先づ米國に例を取るならば一九一二年にウイルソン氏を大統領に任命するようにしたことはウィルソンの人格が第一の要素であり、そして此の知者階級が第二の最大なる要素であるのです。けれども、これ等の知者階級は稀多に一つの要素となつて働かないものです。

學位の持主や特種の學校の卒業生に附着する餘力（プレステージ）は永久のものではありません。又、或る社會に於ては却つてそれが侮辱されることもあります。つまり知者階級の各

員はその腕前によつて立たなければならないのです。知者階級が普通の人以上に尊敬される理由は手には熟練あり、頭は開發されて居り、そして、胸には價値ある目的を持つてゐるからであります。

下級社會

『先づ單純に云ふならば民衆は永久に民衆で居る。臺所に下女が居なければ教養は出來ない。骨の折れる下仕事をして吳れるものがなければ到底教育は榮へない。僅かな人間が書物を書いたり、繪を書いたり研究をしたりするためには、億萬の人間が田畑をたがやし、金屬をきたへ、鑛物を掘り出さねばならない。さう云ふと甚だ亂暴に聞へるが、併し、それが開闢以來の事實なのだ。如何に苦情を云はうと泣き言を云はうとそれを變更することはどうしても出來ない。』で獨逸の歷史家トライチケは彼の政治學に於て云つてゐます。

此の民衆と云ひ、下級社會と云ふ言葉は、中世紀の封建制度の遺物とす。合衆國で

は、手仕事をする人、或ひは收入の少ない人を民衆とか或ひは下級社會とか云つて居ます。併し、世界が切實に要求して居る仕事に熟練を持つて居る人を下級と云ふのは正當でありません。そう云ふ人は社會組織の内に一定の位置を占めてゐて、そして社會組織を圓滿にするには無くてならない人達です。これに反して、何ものにも熟練を持つて居ない人、及び職業なくして居るような人は產業的には社會のどん底に位ひする人間です。そして自然の結果はどうなるかと云ふとさういふ人は彼の家族と共に彼の時代の生活を誠に不完全に生活することになります。そして、終には貧民の境地に流れ入るのです。

そして、こういふ見地からは煙突の掃除や或ひは道普請をする勞働者は私共になくてはならぬ仕事をするのですから、威嚴を持つて居ていゝ筈です。もし彼等が熟練を持つて居て正直に仕事をする以上は彼等を下級社會の人として卑しめるのは間違つてゐます。社會的の見地からは世の中の羨望の的となつてゐる何にもしない金持ちが特

別な尊敬を拂はれる理由は少しもないのみならず、彼等は怠け蜂のようなものであります。

氣樂に暮して居る人、及び、教育のある人は多くの場合、親から財産を貰つて居ます。そして、さういふ人達は自分達が持つてゐる特點を利用する性質も勢力も持つてゐます。そして、此處に階級組織が存在する理由があるのです。

とは云つても貧乏人や無學者はその資格をかいて居るとは云へません。そして、いはゆる上流階級に這入る條件が二つあります。その一つは功名心を起す空氣を幼少の時代から持つと云ふことゝ、そして、それを實行する機會を持つと云ふことです。其處で財産があると云ふことと、それを利用する心だてと、それから、功名心を起す空氣とそれを實現する機會とこの三つの要素の關係は次のように云ふことが出來ます。則ち資格といふことゝ、好機會とがピッタリ合はなければならない。それから功名心と云ふものは、資格をして其の好機會を利用するような功名心でなければならない。

時とすると外部から特別な刺戟がなくとも、功名心になり得る程資格が充分大きい場合があります。さういふ場合は差し當り好機會が無くても其の好機會を見出します。併し、大抵の人にとつては成功するにはどうしても此の三つの要素がなくてはなりません。卑しいとされてゐる職業をしてゐる人が彼等の生來の能力を發達させて居ないこと、又、甚だしきに致つては生來の能力を持つてゐてもそれに氣が付かない場合も度々あります。

編輯の後

本號の表紙と扉のカツトは美術學校の生徒宮氷糸子さんと赤堀千代子さんと共力して作製して下さつたものです。二嬢に感謝の意を表すると同時に讀者諸士に御披露致します。

先日、招かれて新潟市へ講演に行つて參りました。市中及び其の附近の土地其のものによく敎育が行き届いて居るのには私は感心致しました。川のふち、又は山の麓の二坪か三坪の地面でもよく耕して何かしら作つてあるのでした。

歸途は磐越線を通つたのでありますが馬下（まおろし）驛から津川（つがは）驛あたり迄の美觀麗觀はとても下手な言葉では云ひ盡せません。丁度、萬樹紅黃となつた山、其の山の麓を流るゝ阿賀川の清流、波に清められたやうな、起伏してゐる斷岩、處々にスイ〳〵と立つて居る奇松。私と同行して居た私の夫は申しました。「風光明媚と云ふことで世界的に有名になつてゐる世界の名勝も、これに劣るとも決して優りはしない」と。それを聞いて私は非常な心強さを感じました。

本誌定價表

一册	金二十五錢	送料五厘
六册	前金 金壹圓四十錢	（送料共）
十二册	前金 金貳圓七十錢	（送料共）

■誌代及郵税は前金の事■御送金の際は振替貯金東京五三六八八番に御拂込みのこと■郵券代用は五厘切手にて一割増■廣告は御照會次第御相談いたします

大正十一年十一月廿三日印刷納本
大正十一年十二月一日發行

編輯兼發行人　東京四谷區南伊賀町四一　山田嘉吉

印刷人　東京神田區仲猿樂町十七　大杉直次郎

發行所　東京四谷區南伊賀町四一　婦人と新社會社　振替東京五三六八八

大正十一年十二月一日發行　大正十一年十一月二十三日納本　大正九年二月二十三日第三種郵便物認可

定價二十五錢